

国語

	生徒の変容状況	分析結果(成果と課題)	今後の授業改善の方向
1年	授業内の課題や発言、音読等も意欲的に取り組む生徒が多い。毎週の漢字テストにあわせて出す練習課題に取り組もうとする姿勢も強まった。しかし、意味調べなどの家庭での課題を行わない生徒も多く見られる。	週1回の漢字テストと課題提出により、漢字学習に対する意欲や、テストの得点は伸びてきたが、普段書く文章には定着していない。引き続き指導を進めていくほか、漢字検定の練習などを通して既習の漢字の定着を図っていく。	今後も授業規律を大切にしていけることが大切である。また、より多くの作品に触れ、語彙の数を増やし、基礎学力を向上させていく。さらに、いろいろな場面で自分の考えを書いたり発表したりする活動をする必要がある。
2年	授業の課題に対しては、意欲的に取り組んでいる。授業中の発問や指示に対して、積極的に質問をしたり、発言をしたりと学習に対する意識が高まっている生徒が多く見られる。反面、家庭での復習や学習をしない生徒や、小テストなどの準備をほとんどしていない生徒も見られる。	漢字の小テストや単元ごとの感想など、そのときの課題にはしっかり取り組むことができる。漢字に関しては定着していない生徒も多い。文章を書く機会が多く設けているので、書くことに対する抵抗はない。600字の作文なども、字数的には問題なく書けるが、内容を推敲しまとまりのある文章を書くことが課題である。また、語彙の数を増やすことが基礎学力向上のために不可欠である。	今後も授業規律を大切に、まずはしっかり聞くことができるように意識させたい。語彙の数を増やすために教科内だけでなく、多くの文章に触れられるよう、読書も薦めていく。漢字は既習のものが定着できるよう、テストの出題方法などを工夫したい。
3年	授業中の課題には意欲的に取り組んだ。3年間朝読書として簡単な文章や新聞記事を読み、自分の考えを書く活動を継続的に行ったことで、思考力の幅を広げられることができる生徒が多くなった。また、授業の中で、自分の考えを書く機会を多く設けたことにより、文章に対する理解を深めることができた。	書く機会を多く設けたことにより、長い文章を書くことに苦手意識を持つ生徒が減ってきたものの、根拠が不明瞭である生徒が多い。自らが書いた文章を読み直し推敲させる力を身につけることが課題である。	基礎学力の個人差が大きい中、授業の焦点をどこに当てるか、どのような力を付けさせることを中心に考えるかなど、集団の学力に応じた授業作りを考えて実施していきたい。

社会

	生徒の変容状況	分析結果(成果と課題)	今後の授業改善の方向
1年	<p>・基礎的・基本的な知識が定着している生徒は、授業にもより積極的に取り組んでいます。そのため、基礎的・基本的な知識をより多くの生徒に定着するようにしてきましたが、定着しつつあります。</p> <p>・教科書、ノートなどの準備、黒板を写す、作業に取り組むなど基本的な授業規律を身につけていない生徒もやや減ってきました。</p>	<p>・授業のはじめに授業の目当てを明確に示し、授業に意欲的に取り組ませましたが、その成果もやや表れました。</p> <p>・授業の中に、課題に対して自分だけで考え、まとめる時間、自分の考えを小集団の中で発表しあう時間、板書してクラスに発表する時間を意図的に作り、授業を活性化させましたが、しっかり小集団で発表できるグループとできなかったグループも見られた。</p>	<p>・やはり基礎学力不足、基本的な生活習慣の身につけている生徒が多数見られるので、基礎的基本的な学力を身につけられるように授業の指導を工夫していく必要があります。</p> <p>・また、継続的な学習による基礎学力向上のため、家庭学習にも取り組ませることが必要です。</p>
2年	<p>2学期の後半あたりから、落ち着いて授業に取り組む雰囲気が出てきた。また、授業内での問題演習にも積極的に取り組む生徒が増え、基礎的な力がついてきている。</p>	<p>問題演習を取り入れ、授業の復習を毎回行える形を作った。それによって、重要語句を覚えるなどの基礎的な力がついてきたことが定期試験の結果などに表れている。一方で、資料を使って思考力を問うような問題を敬遠する傾向が未だに見られるため、そのような問題の解き方を丁寧に解説していく必要がある。</p>	<p>3年次には真剣に授業に取り組む生徒がさらに増えてくることが予想される。発問やワークシートの内容を精選して生徒の発言の機会を増やし、積極的に参加したくなるような授業づくりを行っていく。また、授業プリントのレベルを上げ、教科書や資料集を活用しながら思考力を使って取り組む活動を増やしていく。</p>
3年	<p>落ち着いて授業に取り組む生徒が増えてきたが、その反面復習をしないため定着しないことが多い。定期テスト、小テストなどでは学習に取り組む生徒が多く見られた。</p>	<p>試験前の復習プリントは、よくやっている生徒が増えてきた。授業中に行うワークも効果が上がり、提出率も上がってきた。ほとんど取り組まない生徒への援助に工夫が必要となっている。考えさせる課題を与えてきたが、自分で考えをまとめようとする生徒が少ない。</p>	<p>テスト前のプリント学習や、授業中のワークは一定の効果が上がっているため、今後より積極的に授業に取り組ませるために、小グループに課題を割り振って説明させる方法に取り組みたい。</p>

数学

	生徒の変容状況	分析結果(成果と課題)	今後の授業改善の方向
1年	小テストや帰り学習が定着したことや試験前の取り組みでも自ら進んでやろうとする姿勢が見られるようになってきた。	まだ基礎学力の定着までは程遠いが、小テストや帰り学習、補習を続けてきたの成果は徐々にあがり、学習への関心や意欲が高まってきている。支援を求める生徒も増えてきているのでそれにどう答えていくかが課題である。	これまで続けてきた取り組みを今後も続けていく。また、基礎をより充実させるため、机間指導や補習などを利用し、個別の指導にも力を入れていきたい。
2年	集中し授業時間内でしっかり学習しようという生徒が出てきた。出てくる質問も積極的で良い質問になっている。	その時その時には以前より問題が解けるようになったが、根本的な性質について理解していないためまとめのテストなどになると解けなくなってしまいう生徒が多い。また、家庭学習の時間がほとんどないため定着していかない。	学習に取り組む姿勢は良くなってきたため、今後は家庭学習の習慣をつけるべき。そのためにも短時間ではなく長時間机に向かう習慣をつけていく。進路の話も含め、生徒のやる気を引き出すような授業展開を行う。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的内容を理解しようと努力、質問する生徒が増えきた。 ・授業中の取り組みが前向きに変化してきたことで、集中力が増してきた。 ・自分で立てた計画で家庭学習をする生徒が増えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意識・気持ちの成長で質問が増えてきた。その内容も「先生これテスト出ますか」といった内容の薄いものから「この解き方のどこが失敗なのでしょうか」等、自分の取り組みに対しての評価や疑問へと変わりだした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・更に質問・疑問の解決へのモチベーションを高めていく、教材・発問の工夫の必要がある。

理科

	生徒の変容状況	分析結果(成果と課題)	今後の授業改善の方向
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識が定着しつつある。 ・なぜか、という考える時間を積み重ねる事で、理論的に考えられる力が少しずつついてきた。 ・家庭学習を習慣化で着ている生徒もいるが、まだ十分とはいえない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎知識を定着できるよう、長期休暇明けなどにもテストを行う。日々の授業の中での確認プリントなどを行う。 ・実験プリントの自己記述らんを自ら書いていけるような工夫、指導を引き続き行う。 ・家庭学習については課題、声かけを引き続き行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識を定着できるような課題やテストなど、確認できる学習を繰り返し行う。 ・特に授業の遅れが目立つ生徒には、補習を引き続き行い個別の指導を行う。 ・発展的な内容や日々の生活へ関連した内容を扱う。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な内容や規則性を十分に理解する力がつきつつある。 ・授業中の話を聞き内容を理解する力がついた生徒が増えた。 ・復習をする習慣が一部の生徒であるが習慣がつきつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な内容や規則性を十分にするための生徒の学習状況や理解度を正確に掌握し授業をおこなう。 ・授業中の話が聞け内容を理解する力をつけるために、反復学習や振り返り学習をおこなう。 ・復習をする習慣をつけるために、1授業時間内の重点を明確にし、不十分な学習箇所を各生徒が掌握できるような学習指導をおこなう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとに学習のまとめの確認として問題を配布し、回答を解説を十分に行う。 ・過去の授業で学習した内容を関連した学習を行っている場合は振り返りを十分に考慮する。 ・発展的な学習を毎日の生活に関連付けた現象を集会しながら授業のなかに積極的に取り入れる。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な内容を理解しようと努力する生徒が増えてきた。 ・授業中の取り組みに前向きで、集中力が増してきた。 ・家庭学習をする生徒が増えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み明けの基礎学力テストと、1月下旬の基礎学力テストにおいて正答率を検証したところ、約7割の生徒において上昇した。授業内の取り組み方や家庭学習、演習問題などによる問題への解答方法の力が上向いたと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な学力の定着度を、もっと短い期間で行う工夫をする。 ・授業内の規律を徹底する。 ・よりはっきりと、めあてを明確にした授業を展開する。 ・生徒のやる気を喚起させる工夫をする。

英語

	生徒の変容状況	分析結果(成果と課題)	今後の授業改善の方向
1年	<p>・每学期作文やALTとのスピーチに取り組ませる中で間違えてもよいのでまずは英語を使ってみようという気持ちをもつ生徒は多い。</p>	<p>・「音」を第一に指導して来た中で、聞くことには慣れている。 ・小テストや定期テストで読む問題も多く取り入れる中で全体的に読む力も感じることができる。 ・正しい文法や正しい単語の発音やスペルを身につけるようなコツコツと努力を要する部分には課題がある。</p>	<p>・基礎的な部分を大切にする。文法の説明は日本語で簡潔に行う。小テストを継続して語彙力の定着に努める。 ・英作文やスピーチのようなプロジェクト活動を取り入れて英語を実際に使う場面を作る。その中で達成感や自分の足りない部分を味あわせる。</p>
2年	<p>毎時間の音読や予習での内容把握など、スムーズにできるようになってきた。特に英文英答の解答の仕方がわかってきたようである。文の仕組みや、内容についても理解が進んで、わかるようになってきた。作文もよくとりくんでいる。毎回の単語テストの他、長期の休みを利用して、単語テストもした。</p>	<p>「継続は力なり」と実感している。1年次より続けてきた。毎時間の音読、予習、単語テストなど少しずつ実践して継続した成果が現れていると思う。課題としては理解の遅い生徒、やっと最近学習に向いてやる気を出し始めた遅れ気味の生徒をどのように引き上げていくか、進度別の指導をどうするかである。</p>	<p>3年生となるので、長文を理解しながら速読できる力をつけることと文法のまとめを特に意識的に指導していきたい。</p>
3年	<p>・簡単な英語で、日常会話をやり取りしようとする生徒が増えた。長文などを見たときにも、諦めずに読み解こうとする生徒が増えた。生徒が学習によって確かな学力を身につけていることを実感し、学習に意欲的に取り組めるようになった。</p>	<p>毎時間5分のすらすら英会話を繰り返し行うことで、生徒が意欲的に英会話する雰囲気を作れた。また教科書readの長文を読み、大まかな意味を読み取る訓練を行ったことで、意味を理解しながら、英文を読むことができるようになった生徒が増えた。予習ノート作りを通して、授業前に本文を予習してきて、自分が分からないところを質問したり、意欲的に授業に参加できるようにする。4時間のうち1時間を文法の復習の時間にすることで、基礎基本の定着を図れた。一方、あきらめてしまう生徒もいる。さらに工夫をし、生徒をひきつけられる授業を作りたい。</p>	<p>「読む・書く・聞く・話す」の4技能を伸ばす指導を心掛け、授業内で継続的にできる工夫を行う。それとともに基礎基本を高める小テストや宿題の出し方、予習・復習の定着(家庭学習の定着)をしていきたい。</p>